

ハイブリッド開催 要申込

広島大学病院 がん医療従事者研修会

広島大学病院では、がん診療の質の向上及び専門的な知識の普及を目的とし、がん医療に携わる医師・薬剤師・看護師等を対象とした研修を以下のとおり開催いたします。

(座長) 広島大学病院 がん治療センター 教授 杉山 一彦 先生

本研修会恒例となった、国立がん研究センター東病院 中村能章先生 vs. 奈良県総合医療センター東光久先生の師弟競演研修会を本年も開催いたします。それぞれ分野は異なりますが、各々の分野における最先端の情報を毎年を分かりやすく教えていただいております。大変貴重な機会ですので、多くの皆様の御参加をお待ちしております。

講演1

「SCRUM-Japanが主導する最新がん個別化治療開発」

国立がん研究センター東病院

トランスレーショナルリサーチ支援室／消化管内科

中村能章先生

中村能章先生には、一昨年・昨年に続き本年も、がんゲノム研究・医療開発における最新の状況をお話をいただきます。

中村先生は、本邦の切除不能進行がんに対するLiquid Biopsyの臨床導入において中心的な役割を果たされた研究者・臨床医であり、現在は、がん診断～周術期におけるLiquid Biopsyの臨床開発でも中心的な役割を果たされております。また、Liquid BiopsyやMulti-omics AnalysisによるTumor Heterogeneityをはじめとした基礎研究、バイオマーカーに基づく治療開発、遺伝性腫瘍診療における確定診断やカウンセリングに関する診療基盤の整備など、多岐に渡る研究や医療基盤の構築を進められております。今回は、前々回、前回を超える、更に壮大なお話が伺えることと思います。

講演2

「患者力2.0:共感を科学する」

奈良県総合医療センター 総合診療科 部長

東光久先生

東光久先生には、例年に続き本年も、医療者と患者の関係構築に重要な要素と養う力についてお話をいただきます。

要旨: Patient Empowerment Program (以下、PEP) は結成3年を超え、新たな段階に入っている。PEPでは、患者力を『自分の病気を医療者任せにせず、自分事として受け止め、いろいろな知識を習得したり、医療者と十分なコミュニケーションを通じて信頼関係を築き、人生を前向きに生きようとする患者の姿勢』と定義し、医療者対象にその啓発活動を行っている。PEPでは患者力の構成要素として、Medical literacy, Assertiveness, Communication (以下、MAC) の3つのスキルを挙げている。その前提となるのが、医療者の共感力である。今回はこの共感力に関するエビデンスや事例を通じて学びを深めたい。

開催日時 ▶ 2023年2月10日(金) 18:30～20:00(予定)

開催方式 ▶ Zoomを用いたオンライン開催+会場受講(定員20名)
会場: 広島大学病院臨床管理棟3F1・2会議室

申込方法 ▶ 以下のいずれかの方法でお申し込みください

※申込締切→2月3日(金) 17:00

※会場受講が定員に達した場合はオンライン受講のみへ切り替えさせていただきます

①QRコード

申込フォームに入力し
送信してください



②メール

件名に「がん医療従事者研修会申込」、
本文に受講方法・所属施設・氏名・フリガナ・職名
をご記載の上、下記アドレスに送信して下さい

byo-renkei@office.hiroshima-u.ac.jp

お問い合わせ先: 広島大学病院 医療支援グループ TEL 082-257-5934

(主催) 広島大学病院 (都道府県がん診療連携拠点病院)

(共催) 中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム/広島大学がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)養成プラン